

# 近代天皇制と社会

高木博志 編

▶ A 5判・552頁／定価：本体 7,300円(税別)

ISBN978-4-7842-1955-1  
【2018年10月刊行】

天皇が国家の頂点に立った近代、天皇制は人びとにどのように受け入れられていったのか。社会における受容のありよう、権威を高めていった顕彰という行為の具体的検証を通して、天皇不在の社会へ天皇制が浸透していく過程を描き出す。

明治維新から戦後まで、現代の象徴天皇制へとつながる近代天皇制を、「社会」をキーワードに検討する意欲作。

## 内容目次

序論に代えて―近代天皇制と顕彰 高木博志

### 第一部 近代天皇制と顕彰

神武陵と橿原神宮の周辺―国家神道・教派神道再考 幡鎌一弘

神功皇后伝説の地域的展開と「皇国」意識 本康宏史  
―金沢の八幡信仰とその表象

明治前期の陵墓・皇霊祭祀の特質 上田長生

明治期における地域の楠公父子顕彰 尾谷雅比古

近代遙拝所と地域社会―奈良県下の事例を中心として 市川秀之

神国大博覧会開催計画とその行方 能川泰治  
―昭和初期における松江観光都市化戦略とその帰結

中島久万吉筆禍事件の社会的背景 廣木尚

「国体明徴」と宗教運動 福家崇洋

### 第二部 社会のなかの天皇制

明治維新と画壇の再編 中野慎之

森有礼「不敬」・暗殺事件顛末―虚実の報道を通して 田中智子

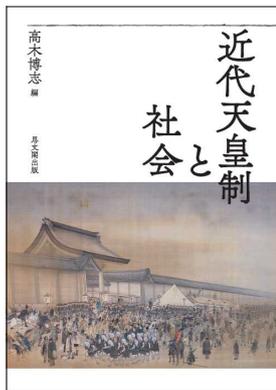
明治中期の皇室と社会 池田さなえ  
―長野県横川山御料林における天皇・皇室の「不在」

近代天皇制と大麻問題 ジョン・ブリーン

大正・昭和戦前期の伊勢神宮参拝の動向  
―娯楽とナショナリズムの両側面から 平山昇

天皇制ファシズムと地域社会  
―「勝つために戦ふ村」の虚構と現実 遠藤俊六

三笠宮の「史学会発言」と社会 河西秀哉



たかぎ・ひろし…1959年生。立命館大学大学院文学研究科博士課程単位取得退学、京都大学人文科学研究所教授。

思文閣出版

〒605-0089 京都市東山区元町355 tel.075-533-6860 fax.075-531-0009  
https://www.shibunkaku.co.jp E-mail:pub@shibunkaku.co.jp

注文票		発行：思文閣出版		(京都 取引コード 3402)	
冊数	冊	近代天皇制と社会	本体7,300円(税別)	ISBN978-4-7842-1884-4	
お名前		tel		本書HPのQRコード	
ご住所	〒	e-mail			
送本方法	代引(書籍代+消費税+送料600円を現品と引き替えにお支払い、代引手数料は弊社負担) ◎ 最寄りの書店・ネット書店でもお買い求め、お取り寄せできます ◎				



**近代日本の歴史都市 古都と城下町**

高木博志編

【オンデマンド版】

「古都」京都・奈良、「加賀百万石」の金沢、伊達政宗の仙台など、都市は実にさまざまな歴史性をまとっているが、それらは近代化の過程で発見され、選び取られたイメージであった。本書は「都市の歴史性」をキーワードに、分野を超えた研究者たちが参加した京都大学人文科学研究所・共同研究「近代古都研究」班の成果。(初版2003年)

▶A5判・602頁／本体12,000円

ISBN978-4-7842-7032-3

**\*象徴天皇制の形成と定着**

富永望著

「象徴天皇(制)」という言葉に着目して、この用語の使用法を検証し、さらに吉田茂の憲法運用と、それに異を唱える政治勢力や憲法学者の天皇観を明らかにすることで、象徴天皇制は新憲法の運用の積み重ねによって形成されたことを実証する、気鋭の書。

▶A5判・316頁／本体4,800円

ISBN978-4-7842-1492-1

**歴史のなかの天皇陵**

高木博志・山田邦和編

各時代に陵墓がどうあり、社会のなかでどのように変遷してきたのか、考古・古代・中世・近世・近代における陵墓の歴史をやさしく説く。京都アスニーで行われた公開講演に加え、研究者・ジャーナリストによるコラムや、執筆者による座談会を収録。

▶A5判・336頁／本体2,500円

ISBN978-4-7842-1514-0

**近代古墳保存行政の研究**

尾谷雅比古著

近代日本の文化財保存行政について古墳を素材としてとりあげ、その背景にある国家の理念とそれに基づく施策、実施される行政行為の歴史の変遷をあとづける。河内長野市の文化財担当職員として長年勤めた著者が、行政と対峙する地域・民衆の動きにも目を向けて文化財保存行政を論じる。

▶A5判・368頁／本体7,200円

ISBN978-4-7842-1734-2

**日本中世の王権と権威**

伊藤喜良著

【オンデマンド版】

中世前期から室町時代にかけての、天皇制と公家政権にまつわる社会思想、民衆意識、身分制等を祭祀・説話・浄穢観・殺生等の鋭い切り口で分析した意義深い論文集である。(初版1993年)

▶A5判・414頁／本体8,300円

ISBN978-4-7842-7012-5

**幕末明治の文人 山中信天翁**

天門美術館企画・編集・発行

幕末から明治にかけて活躍した文人芸術家・山中信天翁(1822-1885)。その功績は書画・篆刻・煎茶、また煎茶関連の諸芸など芸術面で多岐にわたる。本書は、3篇の論考と多数の図版からなり、山中信天翁の芸術を探究した最初の本格的な研究書。数多くの絵画・書・印章194点を収録。信天翁の芸術活動の広さを如実に物語る。

▶A4判変・236頁／本体3,000円

ISBN978-4-7842-1972-8

**明治維新期の政治文化**

佐々木克編

“19世紀における国際環境の中で、明治維新を考える”という京都大学人文科学研究所の共同研究「明治維新期の社会と情報」の研究結果をまとめたもの。政治史、文化史、思想史、精神史を融合した“政治文化”という視点から、明治維新期の諸問題にアプローチを試みた一書。

▶A5判・390頁／本体5,400円

ISBN4-7842-1262-0

**世界遺産と天皇陵古墳を問う**

今尾文昭・高木博志編

世界文化遺産登録に向けた動きのなかで浮かびあがる天皇陵をめぐる諸問題——考古学の成果との齟齬、天皇陵指定の経緯、陵墓公開運動、社会への広がり(ウェブ・教科書・報道)などを多角的に取りあげ、これからの天皇陵のあり方を考える。

▶A6判・304頁／本体2,300円

ISBN978-4-7842-1872-1

**変容する聖地 伊勢**

ジョン・ブリー編

伊勢神宮は古代から変わることなく受け継がれてきた聖域というイメージで語られるが、移りかわる時代のなかで大きく変貌を遂げてきたことはあまり語られない。本書は、国内外の研究者による古代から近・現代にわたる論考16篇を収め、伊勢神宮の変容の歴史を繙く。

▶A5判・340頁／本体2,800円

ISBN978-4-7842-1836-3

**明治期における不敬事件の研究**

小股憲明著

天皇を中心とする明治政府の誕生以来、数多く発生しながら体系的な研究がされてこなかった不敬事件を、明治期について網羅。豊富な実例を整理・検討することによって明治国家の特質を考察し、天皇制と教育の関係、ひいては天皇制と近代日本および国民の関係を明らかにしようとする大著。

▶B5判・576頁／本体13,000円

ISBN978-4-7842-1501-0

**幕末維新期の陵墓と社会**

上田長生著

陵墓(天皇・皇族の墓)に政治的意味を付与し、祭祀を行おうとする政治権力(朝廷・山陵奉行)と在地社会の軋轢・葛藤が最も明確に現れた陵墓管理・祭祀に注目する。また、社会における天皇の位置づけや天皇認識を町・村社会の具体的なレベルから広範囲かつ実態的に描き出し、幕末の天皇・朝廷と社会の関係を解明する。

▶A5判・400頁／本体6,200円

ISBN978-4-7842-1604-8

**神仏習合の歴史と儀礼空間**

嵯峨井建著

【オンデマンド版】

日本宗教史の基本位置にある神道と仏教との関わりを、祭祀・法会の空間である神社・寺院の儀礼空間を視点に論じ、神仏習合の実態を明らかにする。神宮寺における神祇奉斎、寺院附属の鎮守社、仏教儀礼である神前読経、神職系図に基づいた神道周縁の仏法との関わりなど、豊富な事例とともに神仏習合の諸形態を丹念にまとめた実証研究。

▶A5判・430頁／本体8,600円

ISBN978-4-7842-7000-2

**\*後鳥羽院政の展開と儀礼**

谷昇著

後鳥羽天皇(上皇)が課せられた政治課題とそれに対する対応＝政策理念が、宮中の儀式・行事である公事と修法・寺社参詣参籠等宗教儀礼の中に具現しているとする視点から、それらが果たした政治的役割を個別具体的に検証することにより、多面的な視点に立った後鳥羽理解、政治史叙述を企図したものである。

▶A5判・328頁／本体6,000円

ISBN978-4-7842-1536-2

**戊辰内乱期の社会 佐幕と勤王のあいだ**

宮間純一著

鳥羽・伏見の戦いで幕を開けた戊辰内乱は、否応なく当時の社会全体を巻き込んでいった。本書は、みずからの拠るべき正当性を探し求める者、保身のために立場を翻す者、混乱に乗じて地位の上昇を図る者——、新出史料を活用しながらさまざまな思惑が交錯する内乱期の社会像を描出する。

▶A5判・328頁／本体7,500円

ISBN978-4-7842-1829-5

**天皇のダイニングホール**

知られざる明治天皇の宮廷外交

山崎鯛介、M・レッドファーン、今泉宜子著

かつて宮中晩餐会で使用した赤坂仮皇居 御会食所の遺構である明治記念館。その知られざる歴史を繙きながら、当時の宮廷外交の実態について「建築」「テーブルアート」「人物」の3テーマから読み解く。

▶A5判・284頁／本体2,500円

ISBN978-4-7842-1903-2

**西村茂樹研究 明治啓蒙思想と国民道徳論**

真辺将之著

明治の啓蒙思想家・道徳運動家である西村茂樹の思想について、従来の「保守」と「進歩」という二項対立的な枠組みから脱却し、時代状況に応じた問題意識の変遷と主張の展開を、史料に基づいて跡づけることにより明らかにする。

▶A5判・488頁／本体7,800円

ISBN978-4-7842-1491-4